

社会福祉法人 北海長正会 49 ISSUE

四 恩 園

「生きる」をこころみ



地域の人たちと

幸せのかたちづくりを

目指して

社会福祉法人 北海道正会

常務理事 三瓶 徹

▼なぜ社会福祉法人改革なのか

平成二十八年四月から始まった社会福祉法人改革は、平成二十九年四月から完全施行されます。昭和二十六年に社会福祉法が制定されて以来の最大の改革と言われています。改革の要因は制度を取り巻く社会環境の大きな変化によるものです。それは、超高齢社会といわれる人口構造に起因する生活課題とりわけ要介護高齢者や認知症の増加と深刻化であり、二〇〇〇年の社会福祉基礎構造改革による措置から利用制度への改革によるサービス利用の多様化、複雑化、また特別養護老人ホームの内部留保に端を発した公益性・非

営利性を特徴とする社会福祉法人の在り方が問われたことなどによるものです。社会福祉法人は、公益性・非営利性の事業体であり、非課税などの優遇措置がとられており、営利を目的とする民間事業者ではできない無料または低額なサービスを地域において展開し、障がい者(児)や要介護高齢者が地域で安心して暮らすことのできるサービス提供や地域の生活課題に積極的に取り組む地域貢献などが期待されています。

▼国が目指す社会福祉法人の五つの改革

国は五つの改革を示しております。

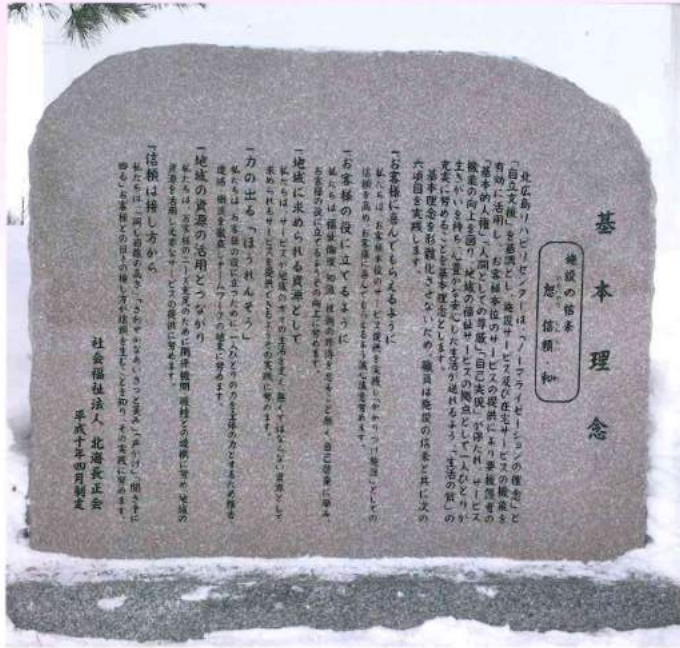
一つは「ガバナンスの強化」で法人組織の事業執行体制の強化で特に評議員会が諮問的な役割から事業執行の責任を担う理事や理事会を監督する機能をもち内部統制の強化を図ることとしています。二つ目は「事業の透明性」であり定款や事業の現況や決算の報告、役員報酬などを公表しなければならぬとしています。三つ目は「財務規律の強化」で一定規模の法人において会計監査人を配置し外部監査による財務規律の強化を図るというものです。四つ目は「公益的な取組」で、社会福祉法人は公益性、非営利性、公共性、純粋性を特徴とした組織体として地域への貢献が求められるということです。五つ目は「行政の関与」で指導監督の強化を図るというものであり、総じて社会福祉法人としての姿勢を厳しく問われる内容の改革となっています。これらの社会福祉法人は、住民や行政とともに法人の有する専門的な人的資源や施設設備等の資源を有効に活用し、地域の福祉ニーズに応えることであり、法人は地域の生活課題に取り組む拠点としての機能を持つことが期待されています。



▼社会福祉法人北海道正会の 地域貢献への取組み

北広島団地地区は、市内において少子高齢化が際立っており一人暮らし高齢者の孤立化、自死、要介護高齢者や認知症、老々介護などの増加、子育て世代の孤立化による育児の悩みなどが生活課題としてあります。二〇一〇年十二月に開設した「地域交流ホームふれて」や二〇一四年四月に開設した「北広島団地地域サポートセンター」とも「は、それぞれが地域の生活課題に

取り組むためにその役割を担っていかねければならないものです。「ふれて」は元スーパー銭湯を「ともに」は元小学校でそれぞれ住民が集い交流を図る環境として最適な場としてあります。その活用にあたっては地域住民が中心となり多種多様な取り組みを行っています。法人は場の提供としてだけではなく、そこでの住民の活動がこの地域の活性化や生活課題の解決や軽減につながることを一緒に考え地域福祉の視点からバックアップすることが肝要となります。



▼幸せをかたちづくる 夢や希望の物語を 住民とともに

社会福祉法人改革は、制度の改革であり真の意味での改革は法人に関わる役員一人ひとりの意識改革が求められるものでもあります。時代は刻一刻と変わり人も地域も変化し続けるものです。変わり続ける人や地域に向けた取組みが時代遅れ

になり、社会福祉法人の組織として本来しなければならない役割が機能していないなど、総じて人も制度もベクトルが安心して地域で暮らせる方向に向いていないのではないかと考えられます。ともすると私たち一人ひとりが「生きる」ことへの主体性が希薄になっていくように感じられます。私たちは、どうしたら人が幸せになることが出来るのか夢や希望を描き、その夢や希望をかなえるために一人ひとりがどうしなければならぬのかそのために制度はどうあるべきなのかを考えなければならぬものです。地域に住む人たちがどうありたいかをかたならなければ物語は生まれません、また、そのかたちを現実のものにしていくためには事業者だけでなく住民、行政が三位一体となるのが必須となります。そのかたちを協働でつくりあげていく先頭に立っているのが社会福祉法人であり私たちの専門的な視点による創造性・独自性が期待されるべきところでもあります。社会福祉法人が社会福祉法人として地域の幸せをかたちづくる役割を担い地域に同化し物語を住民とともに創っていくことが求められます。

《昔のおかあさん、そして今の生活》

この度、四恩園の特別養護老人ホームとグループホームに入居されているお客様のご家族からインタビューをさせて頂きました。入所に至るまでの本人と家族の苦悩や葛藤、その時の思いなどをご紹介いたします。

北広島リハビリセンター 特養部 四恩園 武内光子様

頑張り屋の母

—昔のお母様はどのような方でしたか？—

頑張り屋でメリハリのある母でした。編み物が得意でしたね。特に自分たち子供には弱いところは見せず明るく強い女性であったことを懐しく思います。

また、お正月などの行事には必ず家族全員で集い、楽しく過ごしたりしていました。

—今回のインタビューにあたり、事前に用意

して頂いた五十代から八十代の写真を拝見すると、今と変わらない優しい表情と、ご家族との穏やかで幸せな様子がいま見ることができました。—



50代 社員旅行のバスの中で

認知症の診断 火事への恐怖

—お母様が認知症だとわかった時のことをお聞かせください—

母が四恩園に入所する十年前です。父が亡くなった時から少しずつ行動に変化が表れ始めました。

物忘れが多くなったり、冷蔵庫の中に食材以

外の物が入っていたりなどのことが起こりました。掛かりつけの医師に診断して頂いたことで初めて母が「認知症」であったことがわかりました。それからは私達兄妹の協力と、母の強い意志で約四年間、独居生活を送りました。



70代 トムラウジ山の見える展望台で

朝、昼、夕には必ず母と電話を取り合ったり、兄妹で交替に会いに行くようになりました。ですがある時、いつものように会いに行くと、ガスコンロの上に燃え焦げた紙を発見したんです…。とても恐怖でした。その日からです。自分達で介護を行うことが困難であると感じたのは。

サービス利用

外との繋がりが家族の世界を変える

—特養部への入所のきっかけを教えてください—

市内の社会福祉協議会に相談し、そこから今の四恩園のケアマネジャーと出会い、デイサービスを利用することになりました。

初めてデイサービスを利用した時のことは、今でも鮮明に覚えています。兄妹と三人で行って一緒にソファに座り、母はそのときすごく緊張していました。傍にいとと表情や体の強張りからそれを強く感じました。

そんな時、一人の介護職員から丁寧に声をか

けられると、表情に緊張感がなくなり、近くに置いてあったお茶を少しずつ飲みはじめ、気付いたら笑顔が溢れ出ていました。

その後もデイサービスを利用することになり、送迎の時には運転手に母が笑顔で「ありがとう」と挨拶するようになりました。

そんな生活をしばらく続けていましたが、しだいに独居生活が難しくなり、ケアマネジャーと幾度も相談した上で特養部に入所することになりました。

入所当日、出迎えの職員に、「また会えることができて嬉しいです。おかえりなさい。」という言葉に気持ちが楽になり、とても嬉しかったです。今まで以上に外との繋がりが増え、四恩園が私達家族の世界を変えてくれたのだ。その時、強く感じました。

そして今……

—四恩園では毎日皆さんと一緒に、音楽クラブなど参加し過ごされています。休日にはご家族全員が面会に來られ、談話室で昔話しに花を咲かせておられています。

ご家族からは四恩園での生活について「職員さんの優しさがあるので、家族全員が安心して母を預けることができます。」と、私達職員にはもったいない言葉をいただきました。—



現在、四恩園にて

(インタビュー 上小倉宛美)

家族の想い

～親が施設入所したあの日…

北広島グループホーム四恩園

清水順子様

動物好きのお母さん

—どんなお母さんでしたか？—

そうですね、どんな母親だったか一言で言う
と「大人しいお母さん」です。温厚で物静かで
私達子供を大きな声で叱ったり、怒鳴ったりし
たことは無いですし、人に対して怒っている所
を見たことはありませんでした。

また、動物が好きで犬を常に二匹飼っていま
した。一匹死んでしまうと母が近所から買って
きていつの間にか増えていましたね。普通は子
供が飼いたがって親に駄目と言われるケース
が多いと思いますが、うちは母が好きで飼って
いたようなものです（笑）。

最後に飼っていた犬は「マイケル」という名
前で、母がマイケルジャクソンのファンだった
からなんですけど（笑）。昔、祭りの出店で飼っ
た「ヨロ」もニワトリになるまで育ててしまっ
たり、孫が釣ってきた金魚も十五センチくらい大
きくなるまで育てていました。母が飼うとみん
な育ってしまうんですね（笑）。

「泥棒が入る！」イライラし怒る母に…

—お母様が認知症になったときの様子を
聞かせてください—

父が亭主関白で厳しい人だったのに対し母
はもめ事が嫌いな大人しい人でしたが、父が亡

くなつてからはすぐく話をするようになった
んです。

母が一人になってから私の家に泊まったり、
行ったり来たり生活でした。私はゆくゆく一
緒に住もうと部屋を用意して待っていたので
すが、母は母なりに周りから色々話を聞いて同
居を望まなかったのです。

その頃からです。認知症が進んできたのは…
。母は何でも不安でした。ガスや灯油が無い、
お金の心配、「泥棒が入るから帰る」と言うよ
うになり、私の家に来ても防犯についての不安
が強く、暑い夏の日でも網戸も危ないと怒を全
部閉めきってしまいました。また、怒ったこと
のない母がイライラしたり、怒るようになり、
何とも言えない悲しさや寂しさがありました。
今思えば、母と病院に行くときに「ハンカチ持
たかい？ ティッシュは？」のように、ああしたら
いいよ、こうしたらしいのに…と事細かく言っ
てしまったので、娘に注意されるのが、すごく嫌
だったのでしょうか。



66歳旅先にて

グループホームへ入所 消えた不安

—グループホーム入所のきっかけは？—

私の家に連れ
てきても帰りた
くなり、不安で
落ち着いてい
ることができず、
これは一緒に住
むのは無理だな
と思い、市内の
介護施設に入所
しました。そこは三方月で退所し、その後は私
の家とデイホームかたるとを行き来するとい
う生活をしていました。



現在 敬老会で卒寿のお祝い

そんなおり、デイホームかたると、地域サ
ポートセンターともににグループホームがで
きると紹介して頂き、三年前の四月開所時に入
所しました。

入所してから母と一緒に生活している方
ご家族とスーパーなどで会うのですが、「うち
の母はこうだったのよ。」と話すことがあるん
ですよ。みんなそれぞれ同じような思いや苦労
をしたんだなって。認知症はそれぞれ症状が違
い、色々あるんだなって思いました。

歳を取ったら一緒に住めばいいんだと簡単
に思っていました。実際そんな単純なものでは
なかったですね…。

グループホームは家から近いのでちょこちょ
こ行くことができますし、入所してから不安が
全部消えてしまいました。

（インタビュー） 鈴木優子

こと



二人は、知人の紹介でのお見合い結婚。勇さん二十九歳・ユリさん二十四歳であった。仕事は忙しかったが、六十年間大事にしてくれた。「性格ははっきりしていて曲がったことが無い。私には過ぎた夫だった」子煩悩で、音楽が好きで、旅行好き。海外にもお二人で何度も行った。家族のため、七十五歳まで動いてくれた。

星野 勇様 ユリ様

平成二十七年八月十四日、自宅にて家族に看取られご逝去された勇さん。(享年九十歳)

一年がたった今、妻ユリさんは毎朝夕には、お経のCDをかけ、夜にはその日の出来事を仏前に報告している。

平成二十四年、転倒、また兄や友人との相次ぐ別れで気分が塞ぎがちとなり、平成二十六年十月慢性硬膜下血腫発症、入院となった。食事が摂れなくなり、点滴が試みられたが、血管が細く針が入らず……「痛い、痛い」と泣く夫……

そんな夫が泣く姿を見て、妻は「家に連れて帰ってあげたい」と退院を決める。自宅に帰った夫は、一旦はとても元気になったが、徐々に老衰が進み、食が細くなり、寝ていることが増えていく。

どんなことがあっても 最期まで自分で看たい

妻はそれでも、「どんなことがあっても最期まで自分で看たい」「病院には戻したくない」と自宅で看取るとを決意。

妻に、迷いは一切なかった。

ただ、気持ちはあっても、睡眠不足や自覚しない疲れで、肩こりや耳鳴りがひどかった。

娘さんの厚い協力があつたから、在宅介護を続けることができた。

医師や看護師、デイ職員、知人、友人の支えも心強かった。

訪問看護は、毎週二回の訪問から週二回に増やし、時には緊急の電話で駆けつけてくれることもあり、とても安心できた。

デイサービスは、疲労感が強く起

き上がれない夫を車いすで迎えに来て、入浴をさせてくれた。食事も一口二口しか食べられない日もあったが、個別送迎とベッド休憩で過ごしていた。

自宅では、「介護する家族の集い」の仲間が、妻の愚痴を聞いてアドバイスしてくれ、随分、気持ちが楽になった。

亡くなる一週間前、夫は、

「いい人たちに

恵まれて幸せだ。

俺もう死ぬから」

急にしっかりした口調で妻に告げた。



最期は家族に見守られ、眠るように苦しまず静かに息を引き取った。

「看取れた、送れたという満足感でいっぱい。やるだけやった。送れただけ幸せ」

ユリさんは笑顔でそう語る。

(インタビュー 町田丸美)



お客様を看取るという

私の生き方は私が決めるを支える 「看取りケア(介護)」

施設長 神部 健史

生の過程を支える

「私の生き方は私が決める」という自己決定論がある。同時に本人が最善の利益の判断が困難になった際に他者の介入による自己決定も自己決定支援に通ずるものであろう。自己決定支援とは目的ではなく、あくまでも方法論の一つであり、心底信頼している人に「決めてほしい」というのも「自己決定」の一つといえるであろう。大切なのは、本人の意思を尊重することであろう。

「看取りケア(介護)」は「自宅で最期を迎える」という物理的な支援に留まるものではないと思う。これまで「生きてきた過去の生の営み」、「現在を生活している生の営み」そして「残された未来を生き抜いていく生の営み」が尊重され、その時間を過ごすうえで「生の営みの困難」に対して、自分(本人)史を俯瞰して全体を捉えながら本

人、家族を支えていくことが求められているのだと思う。

尊厳を支える

「最期まで自分らしく生きる」ということは「他人と違う生き方を尊重すること」であり「他人と違う最期を認める」ということ。それが唯一無二の存在としての個人を受け止めることであり「尊厳を支える」ということではないか。看取り介護(ケア)その根底には「私の生き方は私が決める」という「意思決定支援」という重要な課題があるのだと思う。

「いかに」「だれと」「どんなふう」に生きる」ことを社会的、身体的、心理的な要因や生活史、本人、本人を取り巻く家族等も含めた生の営みの困難さや不具合に対する支援のプロセスが「看取りケア(介護)」ではないか。

人の幸福は因果関係で語られるものではない。様々な条件や要素

が複雑に絡みあいながら自分自身が決める。自分の人生が本当に良かったかどうかもまた同様であろう。そのことが時に、他者に理解されにくいことがあることも事実である。そう考えた時に、専門職である私たちは生を営む困難さを共に生き、そのプロセスを家族のため(For You)ではなく共に、一緒に(With You)歩んでいくという姿勢が求められるのだと思う。

病院で泣くご主人を「自宅に連れて帰る」という奥様の意思決定を支援したものはなんだったのだろうか? 「どんなことがあっても自分で看たい」という意思決定はご主人と共に生きてきた一心同体としての夫婦としての共同決定だったのかもしれない。

最期まで生きる支援としての看取りケア

生と死はそれぞれ個別に存在す

るのではなく、死は生の延長線上にあり、一体的なものであると思う。十五年前に特別養護老人ホームに着任した私は個人的には「お客様の最期をより良いものにする」と「より良い死を迎えられるようにすること」が仕事であると思っていた感が強かった。しかし、時間の経過と共にひとり一人の「過去」「現在」「未来」という視点で「最期まで生きる支援」であるということ強く思うようになった。

生きててよかった食べるケア



幸



笑



しあわせの瞬間



喜



食べる



満



新しいお手伝い

私たちヘルパーは様々なお客様と接しながら、毎日の暮らしの中で必要とされるお手伝いをさせていただいておりますが、お客様との信頼関係を築いていく中で、お客様の要望や想いをお聞きする事が多くあります。

「住み慣れた家ですつと暮らしていききたい。」

お客様の願いにふれ、「病気や障がいを負っても、年をとっても、一人暮らしが不安でも、楽しく、安心して、この北広島のみちで幸せに暮らしていただきたい。」このよ

うなヘルパーの想いから、介護保険制度では補えない部分でもお客様のお手伝いができるばと、独自の生活支援サービスを始めさせていただくこととなりました。

何よりもお客様とのつながりを大切にしながら、地域のヘルパーとして四恩園で培った福祉のプロの目線や技術を活かし、お客様の生活が少しでも快適なものになりますようにお手伝いいたします。どうぞお気軽にご相談ください。お待ちしております。

(早川和子)



ゆたかきプラス

～笑顔あふれるあなたの人生を応援したい～

私たち四恩園ホームヘルパーは、北広島に住む方々が病気や障がいを持って、年をとっても、一人暮らしが不安でも、楽しく、安心して、幸せな生活を送ることが出来るように独自の生活支援サービスをスタートさせます。



定期的な安否確認
見守り
話し相手なども
おこないます！

冷蔵庫にある食材で、
温かくて美味しい
料理をつくります！

お墓参り
冠婚葬祭に
同行

部屋の模様替え
タンスの移動など
力仕事も！

通院、入院中の
洗濯など身の回りの
お手伝い



観たかった映画
行きたいレストランや
コンサートにも
同行いたします！

草むしり
ガーデニング
家庭菜園の
お手伝い

介護保険制度や
障がい福祉サービスなどの
ヘルパーサービスに
プラスして
生活を便利に！

ゆたかきプラス 詳細は裏面へ
TEL 011-373-7755

掃除・洗濯

買物

調理

外出同行

- 北広島市にお住いの、60歳以上の方、障がいをお持ちの方、四恩園のサービスをご利用の方はどなたでもご利用いただけます。
- 24時間、365日、いつでもお手伝いいたします。
- 介護福祉士、初任者研修修了者、ヘルパー2級の資格を持ったヘルパーなど、福祉のプロ（四恩園職員）がスタッフとしてお手伝いいたします。
- 30分 1,500円（スタッフ1人が作業の場合）でお手伝いいたします。



ゆたかきプラス

～笑顔あふれるあなたの人生を応援したい～

※サービスのご利用は事前のお申し込みが必要となります。

お申し込み・お問い合わせ（受付時間 9:00～17:30）
北広島ホームヘルプサービスステーション四恩園
〒061-1137 北広島市緑陽町1丁目2番地（北広島団地地域サポートセンターともに2階）
TEL 011-373-7755 FAX 011-373-8802

デイサービス

元気と笑顔は毎日無料！

軽度者の方はもちろん、認知症や身体機能が中重度化した方にも安心して通っていただけるデイサービスです。身体機能の維持向上を目的とした体操や入浴・食事、脳の活性化に特化した体操や季節行事・レクリエーションを通し、「心と身体と脳が自然に動き、笑顔があふれる」一日を提供いたします。

(玉邑亜矢)



デイサービスのお客様はみんな元気です！

かたる

いきーいきー！
レクレッシュ!!

デイホームかたるです。デイホームかたるの特徴としましては、お客様の「活動・参加」の機会が多いということですので。例の一つとして、今年の二月から月に二回程度「レクレッシュ」を行っています。「レクリエーション」と「リフレッシュ」の造語で、「楽しく運動・交流」を目的に地域の方とお客様合同のゲーム大会を行っています。このように、地域との関わりを大切に支え、支えられる関係を目指して運営しています。

(吉田匠貴)



かんたんで楽しい運動です

つながりとふれあい　そして安心

「しおん」は、ともに行う喫茶やサークル活動を始め、地域の行事に参加し、またしおんが行う健康体操には地域の人も参加してもらうなど、互いに顔見知りの関係を築き、「つながり・ふれあ

い」を大切にしています。介護が必要になっても訪問介護・訪問看護・複合型サービス等を利用しながら、終の棲家として安心な生活を過ごすことができるサ高住です。

(山田崇仁)



体操のあとは美味しい食事

住み慣れた家や地域で安心生活を ご提供

複合型サービスは定員二十五名で、通い・泊り・訪問サービスと看護サービスを組み合わせる「通いを中心とした総合的なサービス」です。通いでは、身体と頭の体操やミニゲーム等で笑顔いっぱい時間を過ごして頂き、訪問看護では個別リハビリや介護のアドバイス、医療面の相談等、幅広く対応しています。個々に利用サービスは異なりますが、急な泊まりや、帰宅時間の延長など柔軟に受け入れております。季節の行事や外出では利用者様の笑顔が何よりの喜びです。(吉永美香)



あたたかい日はお散歩です

特養部

四季とよまじり暮らし

特養部は北広島市の街並みを眼下に望む好立地で、四季折々の表情変化はお客様を目をいつも楽しませてくれます。景色を眺めながらのお食事は美味しい！ お風呂も気持ちイイ！と大好評。お年を召しても、認知症があっても、身体に障がいがあっても、末永く安心して暮らせる場所……それが特養部四恩園です。

(長谷川智彦)



もちつきだよ！ 全員集合～！

グループホーム

グループホームで活気ある生活を！

グループホームでは、地域交流スペースを活用した健康体操や、ともに喫茶、地域のお茶の間や行事などに参加し、地域とのつながりを大切に活気のある生活を継続していきます。また、馴染の環境で最期まで安心して暮らし続けることを支援しています。

(皆木有子)



健康体操でみなさん いきいき！

さとみ

おやつ作りに挑戦！

羊かん、お団子、せんべい、パイ、たこ焼きなどなど、お客様とおやつ作りを楽しみました。夏の暑い日には流しソーメンでひんやり涼み、昨年オープンした「さとみカフェ」も、今年は敬老の日地域の方々と餅つきをして賑やかに祝いました。

(及川譲二)



暑い日は格別のおいしさです



居宅介護支援事業所

まずは03-7733-7100
へみんなみんな100まで
までお電話を

私たちケアマネジャーは、お客様のご要望やお悩みに耳を傾け、サービスをご利用になってどのような生活を送りになりたいのか、一緒に考えていきます。

また、人と人がつながり、たくさん笑顔が増えるように、「北広島だいこんマンボ」の普及に努めています。是非、youtubeをご覧ください！

(新沼右文)



誰にでもできる楽しいダンスですよ！

訪問看護

気持ち良く最期を迎えるために……

死を考えることは生を考えること

……訪問看護は利用者の日々の健康管理やアドバイス、リハビリの他、ご自宅で最期を迎える「看取り」を全面的にサポートします。日常を楽しく送るための提案も♡訪問看護主催の外出行事も好評です♪

(町田丸美)



ちょっと珍しい所にも外出します

給食サービス課

心に栄養

こぼれ日が似合い、体をいたわりながら、ゆったりと時間が流れる。

安心して食事ができ、気の合う同士で会話を楽しむ。楽しんでもらうことが大切なことだと考えています。

ご家族や周りの方に感謝の言葉を交わす。食事を通して満ち足りた感謝の気持ちを見える物になってほしいと思いを込めてお手伝いさせて頂いております。

(腰丸宏美)



敬老会の生ちらし寿司

みなみ支援センター

いつまでも住み慣れた
地域で安心して過ごせる
北広島団地地区を目指して
北広島市みなみ高齢者支援センター
(地域包括支援センター)

少子高齢化が進む北広島市。私達が担当している北広島団地地区は、高齢化率五〇%を超える自治会も複数存在しております。認知症は六十五歳以上の一五%程度の発症率と言われており、約一、〇〇〇人弱の方が該当されます。北広島市みなみ高齢者支援センターでは、「認知症になっても安心して過ごせる北広島団地地区を目指し、認知症サポーター養成講座へ積極的に協力を行っております。」
(林晃市)



北広島市双葉小学校四年生（教員・生徒合わせて七十名）に授業の一環で認知症サポーター養成講座を実施。

ふれて

こども食堂

六月から「ふれてこども食堂」きみのとなりで」がスタートしました。

第二日曜日と長期休みの水曜日に、親が仕事で外出しているために、昼食に困っている小学生・中学生と、孤食を余儀なくされている高齢者に昼食を提供することを通じて、地域の繋がりを目的に、第二住区お茶の間委員会とふれて市民スタッフの会が立ち上げました。料金は、こども一〇〇円、おとなが三〇〇円です。
(小野崎ひとみ)



こども食堂のカレーライス

ともに

ふれあい

地域の憩いの場「ともに喫茶コーナー」も三年目を迎えました！

この間、地域の方々、道都大の学生さん、お客様や職員との出会い楽しい時を刻んできました。

これまで暮らしてきた足跡や思い出話、家庭菜園からお庭の花々の話、趣味を超えた写真や切り絵の教室の開催などなど。

私が少しへこんだり、疲れた時も「ともに」に集まると霧が晴れるように吹き飛んでしまいました。

今では喫茶コーナーから地域の学芸会や運動会へと憩いの場が広がっています。

これからも一人でも多くの素敵な仲間と共に楽しい時を過ごさせていけたらと心から願っています。

(市民スタッフ

藤野紀代子)



私達 市民スタッフが地域を盛り上げます！

個人差はあるにせよかならず訪れる“老い”皆さんは最後まで今住んでいる自宅に住み続けたいですか？それともいずれは引っ越ししたいと考えていますか？

住み続けたい場合

最後まで自宅に住み続けたい

ハード面

若い時に家を建てた方が多く、老いがきた時の事を想像していなかったのではないのでしょうか？浴室・トイレなど使いづらくなってきていませんか？車いすで家の中を移動できそうですか？水漏れなどしていませんか？

ソフト面

どんなに強がっても、人は一人では生きていきません。高齢になるほど人の手助けが必要となります。ご夫婦仲・親子仲・ご親類仲は円満ですか？ご近所との仲は円満ですか？何かあった時、駆けつけてくれる支援者はいますか？

対応法

ハード面→家のリフォーム・簡易的な工事（介護保険住宅改修など）

ソフト面→ご親類・ご近所付き合いによる助け合い・家政婦など有料で手厚い民間サービス・介護保険など有料で部分的なサービス・体が弱らない為の工夫

住み替えたい場合

元気なうちに住み替えたい

1人では不安
安心が付いている住宅

介護が必要になっても住み続けられる住まい

介護が必要になったので住み替えたい

- ・サービス付き高齢者向け住宅
- ・住宅型有料老人ホーム
- ・高齢者下宿や高齢者共同住宅など

選ぶポイント!……部屋の広さ・収納の広さ・費用・食事のおいしさ・病院との距離・交通の利便性・要介護状態が悪化した時に備えて（系列でグループホーム・特養・老健・病院などを有しているか）等

- ・サービス付き高齢者向け住宅（医療・介護連携型含む）
- ・軽費老人ホーム（ケアハウスなど）
- ・介護付き有料老人ホーム

- ・グループホーム（認知症対応型共同生活介護）
- ・特別養護老人ホーム
- ・介護老人保健施設
- ・介護療養型医療施設



（北広島市みなみ高齢者支援センター）

私たちの職場の福利厚生 四恩園の福利厚生の一部をご紹介します！

健康診断

年1回実施。夜間勤務者は年2回実施します。

忘年会、ソフトバレー大会、お食事会

職員親睦会の各行事に参加できます。忘年会の景品は超豪華！

道民間共済会、ソウェルクラブの各種サービスの利用

各お祝い、健康管理助成、研修助成、グルメ会、スポーツ大会、施設割引券 etc

介護職員初任者研修助成

当法人職員は受講料が一部免除されます。

各専門研修支援

道内外の研修参加をサポートします。

永年勤続職員の表彰

勤続十年ごとに表彰し、報奨金、記念品が授与されます。

定年退職後継続雇用制度

定年後も継続的に働くことができます。

診療費健康手当

当法人の付属診療所で受診した場合、健康手当として診療費を一部負担します。

携帯電話購入補助

auに限り、乗換え・新規・機種変更のさい、割引することができます。

四恩園に興味のある方は [四恩園](#) で 🔍 検索！

● 発行者 **社会福祉法人 北海長正会**

● 住所 〒061-1153

北広島市富ヶ岡509-31

● TEL (011)373-6655

● FAX (011)373-6611

● ホームページ <http://www.shionen.or.jp>

● E-mail tokuyo@shionen.or.jp

● 編集発行 広報委員会

● 編集発行責任者 三瓶 徹

